

一 般 質 問 通 告 表

ページ

① 中 村 実		1	(6 月 13 日 予 定)
② 保 坂 悟		1	(//)
③ 和 泉 克 彦		3	(//)
④ 利 根 川 正		5	(//)
⑤ 宮 島 宏		7	(6 月 16 日 予 定)
⑥ 近 藤 新 二		9	(//)
⑦ 田 中 立 一		10	(//)
⑧ 池 田 七 菜		11	(//)
⑨ 阿 部 裕 和		12	(6 月 17 日 予 定)
⑩ 渡 辺 栄 一		13	(//)
⑪ 田 原 洋 子		14	(//)
⑫ 加 藤 康 太 郎		16	(//)
⑬ 東 野 恭 行		18	(6 月 18 日 予 定)
⑭ 松 田 徳 彦		18	(//)
⑮ 関 原 奈 津 美		20	(//)
⑯ 田 原 実		21	(//)

質 問 事 項

① 中 村 実

1 「相撲のまち糸魚川」の展望について

【答弁者：市長】

横綱大の里、本名中村泰輝君は、7歳で相撲を始め、中学進学を機に、糸魚川市の市立能生中学校、県立海洋高校に相撲留学し、数々の活躍や優勝を重ね、進学先である日本体育大学では、学生横綱やアマチュア横綱2連覇を果たすなどの実績を残しました。

大学卒業後、大相撲の世界で夢をかなえるために選んだ部屋は、元横綱稀勢の里の二所ノ関部屋で、その後の活躍は言うまでもなく、日本人横綱としては師匠の稀勢の里以来8年ぶりという快挙を成し遂げました。

引き続き怪我もなく記録を重ねていくことにより、今以上に出身地である石川県津幡町と糸魚川市の明るい話題となり、当市の知名度も高まると思います。

また、大の里以外にも海洋高校の卒業力士が多くいることから、今後の活躍が楽しみです。ついては、各種課題もあると思いますが、今後このような盛り上がりを活用した「相撲のまち糸魚川」について、次の点を伺います。

- (1) 津幡町との交流や連携の予定はあるのか。
- (2) 相撲道場の新設や既存土俵の整備拡充の計画はあるのか。
- (3) 相撲を活用したまちおこしについての展望はどうか。
- (4) 市立能生中学校での相撲留学再開の可能性はあるのか。
- (5) 市は、「相撲のまち糸魚川後援会」とどのように関わるのか。

② 保 坂 悟

1 市長公約である(仮称)駅北子育て支援複合施設の建設見直しについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) 選挙公報の「本当に市民の声を聞いて進めたのか？」について

- ① 駅北の復興計画、まちづくり戦略、(仮称)駅北子育て支援複合施設基本計画のどの部分を指して言われているのか。

(2) 「久保田いくお公式サイト」の指摘項目と市民の声について

- ① 「既存施設の利用」とは、どこを想定しているのか。
- ② 「本当に駅北がふさわしいのか」とあるが、どこならよいのか。
- ③ 「にぎわいの拠点施設」に対して「一貫した子育て支援になっているのか」とあるが、この問題提起の意図は何か。

質 問 事 項

- ④ 駅北における「にぎわいづくり」の対案はあるのか。
- ⑤ 建設見直しの場合の財源案やスケジュール案は考えているか。

(3) 屋内遊戯施設の認識について

- ① 当市に屋内遊戯施設が無いことをどのように受け止めているか。
- ② 運営費をかけても多くの家族連れに利用される屋内遊戯施設をつくる考えはあるか。
- ③ 県内外の自治体、道の駅、ショッピングモール等が屋内遊戯施設に力を入れている理由を調査しているか。

2 市長公約である産後ケアと保育環境の充実について

【答弁者：市長、教育長】

選挙公報に「一貫した子育て支援を」と市長は強調されていますが、具体的な取組について伺います。

(1) 産後ケアから保育環境の充実について

- ① 1歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ② 3歳未満児への支援の考えはどのようなものか。
- ③ 小学校入学前の幼児までの支援はどのようなものか。
- ④ 障がい児や医療的ケア児の支援はどのようなものか。

(2) 市内の産後ケアの事業所への支援について

市内では糸魚川総合病院とラ・マドレが産後ケア事業を行っているが、具体的にどのような事業者支援を検討されるのか。

(3) 市内の産前産後ケアの体制づくりについて

産科医不足が叫ばれている中、糸魚川市として産科医ありきの想定で体制を進めるのか。それとも産科医が確保できなくても安心して子どもを産み育てられる環境整備にシフトしていくのか。その方向性について、どのように考えているか。

3 市長公約である学校の再編、地域展開への移行、多様化への対応、施設の再構築についてと大学・専門学校等との連携、キャンパス誘致について

【答弁者：市長、教育長】

(1) 教育移住の推進について

- ① 近年、全国では自然環境や少人数制クラスによる先進的・特徴的な学校を売りにした取組がある。当市でも親子ワークショップ体験入学や陰山メソッドによる基礎学力の定着を図る取組がある。今後、幼稚園や保育園、小中学校、高校において、新しい取組を行うことが市長公約にある多様化の対応に含まれるが、具体的にどのようなことを検討されているか。

質 問 事 項

(2) サテライトキャンパスの推進について

- ① 海洋高校と近畿大学が連携してノドグロの養殖に挑戦をしている。水産業のスマート化や働き方改革などに対応するため、海洋水産系大学の誘致をどのように考えているか。
- ② 地元企業が農業や林業に力を入れている。農林業系の大学の誘致について検討をしているか。
- ③ 糸魚川市は世界ジオパークのまちである。地質や鉱物、動植物の生態関連の大学の誘致について検討をしているか。

4 市長公約の縮充と新しい糸魚川づくりについて

【答弁者：市長、教育長】

(1) マリンドリーム能生のかにや横丁と鮮魚店の前の段差について

込み合っているとき、段差を踏み外してケガをすることがあると聞いている。紅白のペイントで対応しているが、段差を無くす考えはあるか。

(2) 旧姫川病院の対応について

テレビ番組やY o u T u b e 等では心霊スポットとして紹介されている。観光振興や安全面の観点からマイナスイメージとなる。市長として取り組む考えはあるか。

(3) 個人住宅用の防犯カメラの設置補助制度の創設について

長野駅の殺傷事件で「リレー捜査」という言葉が話題となった。市内でも様々な事件や事故が起こっているので、個人用防犯カメラの設置の推進を市長として取り組む考えはあるか。

(4) 学校給食の無償化について

- ① 来年度、全小学校で実施予定であるが、準備はできているか。
- ② 全中学校での実施に向けて課題や問題点はあるか。
- ③ 小中学校給食の無償化に向けて、財源確保の目処は立っているか。

③ 和 泉 克 彦

1 久保田市長が目指す「市民と共に未来を開く」まちづくりとそれに係る「縮充」について

【答弁者：市長】

久保田市長は、「市民と共に未来を開く」まちづくりを目指すとされており、そして、市民の声に耳を傾け、ともに考え、ともに行動していく「市民参加型のまちづく

質 問 事 項

り」を掲げておられます。これらと合わせて「縮充」という考え方も示されておられます。

そこで、以下、伺います。

- (1) 市長は、「市民の声に耳を傾け、ともに考え、ともに行動していく」とのことですが、このような機会を設けるために、どのようなことを想定されているのか、伺います。
- (2) 市長は、これからの社会には、「縮充」という考え方が必要であるとのことですが、市長の言葉としては、「縮小」する現実を悲観せず、縮小する中で「充実」を大切にするというお考えですが、市長が、現時点でお考えになる「縮充」とは、具体的にはどのようなものなのか、伺います。
- (3) 市長は、糸魚川の持つ豊かな自然、歴史、文化、ここに暮らす全ての方の力を活かしたまちづくりをお考えですが、糸魚川地域、能生地域、青海地域、それぞれの地域の特出すべき具体的なものを挙げるとすればどのようなものなのでしょうか、伺います。

2 マイナ保険証に係る現状と課題について

【答弁者：市長】

紙の健康保険証の新規発行停止から半年が経ちました。デジタル化の流れの中で主流となるはずのマイナ保険証の利用率の低迷や医療機関での何らかのトラブルが報道されています。そのような状況で、マイナ保険証を持っていない方への資格確認書の発送交付が来月末までに完了し、本人の手元に届かなければ、マイナンバーカードの有効期限切れの問題と合わせて、マイナ保険証に係る混乱を招くことになりかねないということが懸念されます。

そこで、以下、伺います。

- (1) マイナンバーカード、それと紐づけになっているマイナ保険証のそれぞれの取得率と利用率について伺います。
- (2) マイナ保険証に係るトラブルが全国的に起こり、そのことがマスコミなどから報道されていますが、当市における現状や、現状としてもトラブル等があるとすれば、それについてどのように対応しているのか、伺います。
- (3) マイナ保険証を持っていない方へは、資格確認書が交付される予定ですが、当市においても交付に向けた業務が適切に行われているのか、進捗状況を伺います。
- (4) 本年4月、厚生労働省は、すべての75歳以上の後期高齢者と65歳以上75歳未満の方で、一定の障害があると後期高齢者医療広域連合から認定を受けた方に対して、令和8年7月末までの間における暫定的な運用として、マイナ保険証の保有状況に関わらず、資格確認書を無償で申請によらず交付すると発表していま

質 問 事 項

すが、当市においても同様の対応がなされるのか、伺います。

3 J R 大糸線の存続に係る現状と課題について

【答弁者：市長】

糸魚川駅で北陸新幹線から乗り換えて、J R 大糸線沿線を訪れる方々の姿、特に、外国人客の姿をこれまで以上に見る機会が増えてきています。

そこで、以下、伺います。

- (1) 大糸線の利用客は、コロナ禍を脱してから増加傾向にあるのか、伺います。
- (2) 昨年度からは、北陸新幹線と大糸線との接続状況を鑑み、利用客増加への取組として、大糸線増便バスの運行がなされています。この取組についてどのように分析しているのか、伺います。
- (3) 今や3,000名を超える大糸線応援隊の現状と課題、これらを踏まえて今後どのような方向性を考えているのか、伺います。
- (4) 生活路線としては厳しい状況にある大糸線であると思います。これまでは、沿線の魅力を発信しての取組や鉄道ファンを中心としたイベント的な取組がなされてきましたが、大糸線の現状を鑑みて、観光路線としての位置づけを明確にすべきであると思いますが、いかがお考えでしょうか、伺います。

④ 利根川 正

1 久保田市長の重点政策について

【答弁者：市長】

- (1) 久保田市長の基本理念は、市民の声で新しい糸魚川をつくる。その重点政策として、第一に医療、福祉を挙げられています。

糸魚川市の医療体制を守り、糸魚川総合病院や地域医療施設の維持強化を固くする。新潟県の広域医療方針に符合しながら、安心できる医療を確保するとありますが、以下の点について伺います。

- ① 糸魚川市の医療体制をどのように考えているか。
 - ② J A新潟厚生連糸魚川総合病院について、どのように考えているか。
 - ③ 県の地域医療構想は、医師も施設も拠点化するとしているが、糸魚川市において、救急医療体制をどのように考えているか。
 - ④ 福祉において、施設の維持と介護福祉士の減少をどのように考えているか伺います。
- (2) 重点政策の第二に挙げている教育で、子どもたちが学びやすい環境を整え、

質 問 事 項

学校再編や部活動の地域展開を推進し、少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制を構築するとありますが、以下伺います。

- ① 学校再編で小学校をどのように考えているか。
- ② 保育園の民営化について、考えを伺います。
- ③ 部活動の地域移行についての考えを伺います。
- ④ 少子化を見据えた効率的で質の高い教育体制の構築とは、具体的にどのようなことか伺います。
- ⑤ 駅北子育て支援複合施設建設の見直しとは、市民は中身を見直すと思っている方と、建設自体を見直してそこには建てないと思う方がいるが、市長の考えを伺います。
- ⑥ 建物ができるまで、固定化した子育て支援センターの仮施設を作るべきと思いますが、市長の考えを伺います。

(3) 重点政策の第三に挙げている経済活性化で、第一次産業を基盤として、地域資源を最大限に活用して経済を活性化する、また観光資源の整備や、ふるさと納税の活用により、特定資金源を確保しますとありますが、以下伺います。

- ① 第一次産業で農業、林業、水産業が糸魚川の代表ですが、どのように活性化していく考えか。
- ② 特に今コメが深刻な問題となっており、高齢者や子育て世帯は、安いコメが手に入らない現状で、市として対策を打てないか。
- ③ 観光資源の整備とは、具体的にどのようなことを言うのか。
- ④ ふるさと納税の活用により、特定資金源の確保とありますが、強化が必要と考えます。特にコメの販売が全国で好調で、糸魚川市も契約して在庫を確保してもらいたい、考えを伺います。

(4) 重点政策の第四に挙げている地域の特徴を生かすでは、糸魚川市の3地域を中心に、観光資源や伝統文化を活用して発展させ、宿場町としての歴史を引き出しながら、交流人口の増加を目指すとありますが、以下伺います。

- ① 糸魚川では新幹線、えちごトキめき鉄道、大糸線の活用によるにぎわいの創出とありますが、どのような考えがあるか。
- ② 地元経済界の地力アップと観光資源の最大化を通じた交流人口の増加とありますが、具体的にどのように増加させるのか。
- ③ 美山周辺の再開発や塩漬け状態の施設の最適化とありますが、美山の再開発はどのような構想を持っているのか、また、塩漬け施設とは、どこの施設で、どうする考えか。
- ④ 能生では相撲のまち、水産のまちとしてのブランド拡張を掲げていますが、具体的な考えはあるのか。
- ⑤ 力士育成と交流の場を提供する新施設の構想とありますが、建物を建設するのか伺います。

質 問 事 項

⑥ 青海ではピアパークや親不知を中心とした観光資源の充実を挙げていますが、どのような考えでいるか。

⑦ 産業のまちとしての機能充実とありますが、具体的にどのように充実するのか。

(5) 重点政策の第五に挙げている災害対応と安全で、防災対策を強化し、災害時の相互支援体制を実現、地域の連携を深め、安全で安心できる地域を構築しますとありますが、各災害に対してどのような考えをお持ちか伺います。

① (仮称)上越・糸魚川沖地震では、どのような被害を想定して対応するのか伺います。

② 先月、姫川・関川総合水防演習がありましたが、水害等の対策について考えを伺います。

③ 災害時の相互支援体制の実現とありますが、具体的な支援体制を伺います。

(6) まちづくりの新しい概念、「縮充」について

縮小と充実から説明されていますが、その進め方について伺います。

① 権現荘は民営化となりましたが、長者温泉ゆとり館について民営化を進められないか伺います。

② 市内に2つのスキー場がありますが、シーサイドバレースキー場の老朽化が見られます。今後を見据えた考えはあるか伺います。

③ 糸魚川市教育相談センターの改修検討は進んでいるか伺います。

⑤ 宮 島 宏

1 公的施設、特に市庁舎の防火対策について

【答弁者：市長】

本年5月6日深夜、埼玉県白岡市の市庁舎内で火災が発生し、1階部分の約800平方メートルを焼失しました。市庁舎が使用不能になったものの、早くも5月13日から主要業務を市庁舎の近傍の市の公共施設で再開しています。今後は被災した庁舎の損傷の調査、修繕工事の設計と実施や、仮庁舎確保などもあり、完全な復旧には億単位の予算と約3年の年月がかかるとの見通しが出ています。白岡市庁舎は、当市の本庁舎とほぼ同じ築33年で、火災原因は電気系統のショートの可能性が高いとされています。また、スプリンクラーはありませんでした。市庁舎の火災は極めて深刻な影響があることから、当市の庁舎(本庁舎・能生事務所・青海事務所)の防火対策について伺います。

(1) 庁舎の電気安全調査の頻度はどうなっていますか。これまで漏電などの異常は見つかっていませんか。

質 問 事 項

- (2) スプリンクラーは設置されていますか。
- (3) 執務時間中の火災を想定した、通報、初期消火、避難誘導、職員の避難、防火扉の閉鎖などの訓練は行われていますか。
- (4) 冬期間、庁舎内では対流型石油ストーブを使用しています。石油ストーブは低コストで高い暖房効果が得られる一方で、火事の危険性もあり、国内の学校、公営住宅などでは石油ストーブの使用を禁止しているところも少なくありません。より安全な暖房方法に変更することはできませんか。
- (5) 庁舎の灯油の保管量は上限を決め、保管場所には適切な表示や施錠をしていますか。
- (6) リチウムイオン電池は高温多湿の場所に置いたり、過充電や完全放電すると劣化が進み、特に落下など強い衝撃を与えると発火する可能性が指摘されています。モバイルバッテリーの管理や取り扱いについての注意喚起は適切に行われていますか。

2 子どもたちの安全

【答弁者：市長、教育長】

上越地方の小学校で本年4月22日に、黒板横に立て掛けられた蛍光灯が倒れて破損し、その破片が食缶に混入してしまい、教員と介護員が目視で破片を除去して配膳したところ、除去できなかった破片を児童が口にするという事故がありました。さらに同じく上越地方の小学校において、5月13日に水道工事に伴う断水対策として使う飲料水用タンクを漂白剤で消毒していたところ、別の教員が消毒中だと知らずに、その水タンクを子どもたちが遊ぶスペースに出し、児童が飲用してしまう事故がありました。また、本年4月17日には下越地方の市立中学校で、理科実験に用いた劇薬を持ち出した生徒が、下級生にお菓子だと偽って食べさせた事件がありました。さらに6月3日には宮城県の中学校でイオウと希塩酸を使った実験で、10人が救急搬送されています。これらの事故や事件は広く報道されており、ご存じの方も多いと思います。教育委員会や学校の対応について伺います。

- (1) これらの事故や事件の発生を受けて、糸魚川市教育委員会及び学校はどのような指導や見直しを行いましたか。
- (2) 給食に異物が混入した可能性が疑われる場合及び異物が発見された場合、当市ではそれぞれどのような対応をすることになっていますか。
- (3) 当市の小中学校では、飲料水用のタンクは利用されていますか。
- (4) 授業で使用する化学薬品類を、児童生徒が持ち出さないような配慮や対策はしていますか。
- (5) 当市の中学校の理科の授業では、イオウと希塩酸を使った実験を行っていますか。また、行っている場合は、どのような対応をしていますか。

質 問 事 項

(6) 学校には理科用やプール用の化学薬品のほか、保健用医薬品、花壇・畑用の農薬や肥料など様々な化学薬品があるかと思います。これらの保管方法や管理、使用、廃棄は適切に行われていますか。

⑥ 近 藤 新 二

1 学校給食について

【答弁者：市長、教育長】

政府は令和5年6月に定めた「こども未来戦略方針」で、子育ての経済的・精神的負担感や子育て世帯の不公平感を解消するため、「学校給食費の無償化の実現に向けて、まず、学校給食費の無償化を実施する自治体における取組実態や成果・課題の調査、全国ベースでの学校給食の実態調査を速やかに行い、1年以内にその結果を公表する。その上で、小中学校の給食実施状況の違いや法制面等も含め、課題の整理を丁寧に行う」とし、検討を重ねてきた結果、令和7年2月25日に自民・公明両党と日本維新の会の3党合意を結び、給食無償化について「まずは小学校を念頭に、地方の実情等を踏まえ、令和8年度に実現する」と報じられました。

学校給食のねらいは、毎日を健康でいきいきと生活できるようにするために、食事、運動、休養の調和のとれた生活習慣を身につける必要があることを伝えることにあります。

特に、心身ともに成長発達の途上にある児童生徒にとって、栄養バランスのとれた食事を一日3回きちんととり、合理的に栄養を摂取することは健康な生活を送る上で基本とされています。また、家族や友人と和やかに食事することは、豊かな心や望ましい人間関係を育成する上からも、大切な役割を果たすものです。学校給食法が昭和29年制定され、時代と環境に応じ改正がされて現在に至っています。糸魚川市の学校給食について、以下、伺います。

- (1) 学校給食調理等業務の民間委託について
- (2) 給食提供の実態について
- (3) 米や原材料等の物価高騰に対する給食費の対応について
- (4) 保育園、幼稚園の給食費について

2 ゴミ処理の行政課題について

【答弁者：市長】

現在、経済成長と人口増加に伴って、地球規模での廃棄物の増加と質の多様化が起っています。適正処理が行われない廃棄物は、生活環境や公衆衛生を悪化させ、と

質 問 事 項

きに深刻な健康被害を引き起こす可能性があります。持続可能な開発のためには、廃棄物問題に適正に対処する必要がある中で、日本のゴミの分別は世界的に評価されています。

分別収集は、資源の有効活用と環境負荷の低減に果たす役割が大きいと言われていますが、処理技術が大きく進歩してきている今日、異論が出てきています。旧態依存とした分別処理を大きく方向転換し、新たな時代を迎えて、ゴミ処理の取組を市民に負担をかけず、ゴミ処理経費も削減する糸魚川方式を確立し、全国に発信できる事案と考えます。糸魚川市のプラゴミの分別収集の状況を伺います。

- (1) 当市の市民の分別マナーについて
- (2) 当市のプラゴミの分別収集量の推移
- (3) 分別経費の推移とトン当たりの単価の推移
- (4) プラゴミの最終処分先はどこか。
- (5) 市は最終処分先の状況を確認しているか。

⑦ 田 中 立 一

1 農政について

【答弁者：市長】

昨年の夏頃に店頭からコメが消え「令和の米騒動」が発生し、販売価格は急騰して昨年比2倍となり、消費者の生活を直撃、政府の備蓄米放出やコメ増産審議に生産者は、コメ価格下落など、所得への影響に懸念の声も聞かれる。

市内の現状と考えるについて、以下伺う。

(1) 米問題について

コメの価格高騰と供給不足による市民生活への影響について。

諸物価の高騰と併せ実質賃金も下がる中、市民生活への影響をどのように把握しているか。

また、市内の米飯提供施設、事業所及びふるさと納税への影響はどうか。現状と対応について考えを伺う。

(2) 7年度の作付けについて

国のコメ増産に向けての動きが見られる中、糸魚川市の7年度生産数量は減少と伝えられている。

米問題を背景に7年度生産数量、作付面積、主食用米、非主食用米の作付けをどのように捉えているか伺う。

(3) 付加価値を高める有機栽培米や棚田米についての考えを伺う。

質 問 事 項

2 防災について

【答弁者：市長】

先月、災害対策基本法等の一部を改正する法律が可決され、改正災害対策基本法及び改正災害救助法が成立した。

令和6年能登半島地震で得られた教訓を反映してのことと言われるが、被災後でも人の生命と尊厳が守られるべきであるとして、人への支援に重きを置いたとされる。

以下、市の現状と対応について伺う。

- (1) 新たに、災害の定義に「地盤の液状化」を追加したことについて、市の対応を伺う。
- (2) 自治体の物資備蓄状況の公表義務について
特に「避難所TKB」に代表されるような避難所の備蓄確保について、現状と対応の考えを伺う。
- (3) 救助の種類に「福祉サービスの提供」が追加されたことについて、対応を伺う。

3 移住定住について

【答弁者：市長】

移住定住について、市の取組を伺う。

- (1) 移住の現状について
数年間の動向をどのように把握しているか。移住者数、職業、地域、きっかけなどを伺う。
- (2) 空き家についての現状と移住に関する問合せや実績について伺う。

⑧ 池 田 七 菜

1 子育て支援と教育について

【答弁者：市長、教育長】

- (1) (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画の見直しの議論が続いていますが、市長のお考えを伺います。
- (2) 近年の市内出生数の推移と産前産後サポート事業、産後ケア事業の実績について伺います。
- (3) 令和8年度より国の施策にて全国一律での小学校給食費の無償化が実施される見通しとなりました。市として独自に中学校、保育園・幼稚園の給食費を無償化する計画はあるか伺います。
- (4) 令和7年2月に「糸魚川市学びの多様化検討委員会」により「学びの多様化

質 問 事 項

学校（不登校特例校）」の設置について提言がなされました。学びの多様化学校の設置における今後の計画を伺います。

2 市内にある「道の駅」について

【答弁者：市長】

(1) マリンドリーム能生について

- ① 能生マリンホール、海の資料館越山丸、マリンミュージアム海洋、能生海洋公園（荒崎キャンプ場含む）は、指定管理の更新時期となっておりますが、令和6年度の実績と今後の目標や課題について伺います。
- ② マリンドリーム能生周辺整備計画についての進捗状況と今後の予定について伺います。

(2) 親不知ピアパークについて

- ① 指定管理の更新時期となっておりますが、令和6年度の実績と今後の目標や課題について伺います。
- ② 施設の老朽化が進んでいると思われますが、具体的な整備計画があるか伺います。
- ③ ピアパーク周辺整備計画は策定されたのか、計画の展望はあるか伺います。

⑨ 阿 部 裕 和

1 「縮充」の具体化と市政運営の方向性について

【答弁者：市長】

(1) 公約に掲げられた「縮充」の施策について

- ① 「縮めながら選択・充実していくもの」と「選択の中で妥協していくもの」とありますが、具体的にどの分野を指すのか、その選定の判断基準について伺います。
- ② 医療・教育・インフラの縮充とあるが、「縮めるもの」「充実させるもの」「妥協していくもの」それぞれの対象は何か伺います。

(2) 「糸魚川3地域の強みを活かす」ための施策について

- ① 新幹線を始めとした鉄路を活用したにぎわい創出や、交流人口拡大に向け、どのような施策を展開するのか伺います。
- ② 美山周辺の再開発について、お考えを伺います。
- ③ 塩漬け状態の施設の最適化を図っていくとのことですが「塩漬け状態の施設」とは何を指し、どのように最適化するお考えなのか、構想を伺います。

質 問 事 項

- ④ 能生地域において、力士育成と交流の場を提供する新施設の設置案がありますが、その構想について伺います。
- ⑤ 親不知や、ピアパークを中心とした観光資源の充実とありますが、ハード面及びソフト面で、どのような内容を検討しているのか伺います。
- ⑥ 青海地域において、産業のまちとしての機能充実とありますが、どのような機能を充実させるのか伺います。

(3) 重点施策について

- ① 医療・福祉を守るための人材確保へのお考え、取組について伺います。
- ② 保育園の民営化及び適正配置、さらには学校再編及び教育環境の整備について、市長のお考えと具体的な取組方針を伺います。
- ③ 経済活性化へ向けた取組について伺います。
- ④ 地域の特徴を活かした、交流人口増加への取組について伺います。
- ⑤ 防災の観点から「火の見^{やぐら}展望施設」設置を掲げられていますが、具体的にどのような構想なのか伺います。

(4) (仮称) 駅北子育て支援複合施設の建設見直しについて

- ① 建設見直しを公約に掲げ市長選に当選された経緯を踏まえ、今後の方向性や具体的な代替え案の有無について伺います。
- ② 再検討にあたり、市民ニーズの把握はどのようにして行い、施策に反映させていくのか伺います。

⑩ 渡 辺 栄 一

1 新市長の市政全般の抱負と見通しについて

【答弁者：市長】

久保田新市長の市政全般の抱負と見通しについて伺う。

- (1) 選挙戦で訴えてきた「縮充」は、過渡期の知恵であって、過疎化を容認したり、にぎわいを取り戻すことを諦めるものではないと推察するが、「縮充」の概念を説明してほしい。
- (2) 街のにぎわいを取り戻して欲しいと願う市民の声を、市長はどう受け止めるか。
- (3) 企業や教育機関の誘致をどのように考えているか。
- (4) 糸魚川総合病院の存続・充実について、具体的な施策や見通しはあるか。
- (5) 大糸線などの市内交通インフラの確保については、どのような見通しを持っているか。

質 問 事 項

2 (仮称) 駅北子育て支援複合施設整備計画について

【答弁者：市長】

選挙戦の焦点となり、市長が「見直し」を主張した(仮称)駅北子育て支援複合施設整備計画について伺う。

- (1) 市は、解体工事の不調の原因を明らかにせずに、解体区域を隣接する宮田ビルまで広げる予算案を提案しているが、その理由や解体後の用途を含めた説明を求めたいと考えるが、いかがか。
- (2) 解体の予算が、従来より大きく膨らむことになるが、国の補助金などは、どのように支出されるのか。市の支出や負債は、どのような見通しとなるのか。
- (3) 今回の補正予算議案が、選挙戦での市長の公約と整合性があるものなのか、伺う。

⑪ 田 原 洋 子

1 (仮称) 駅北子育て支援複合施設について

【答弁者：市長、教育長】

(仮称) 駅北子育て支援複合施設の計画のスタートは、駅北大火からの復興とにぎわい創出です。

令和元年5月に設置された「糸魚川市駅北復興まちづくり調査特別委員会」は令和2年12月に結審報告を行い、令和3年1月25日発行の議会だよりには、委員長報告として「今後整備予定の、にぎわいの拠点施設については、子育て支援機能を有した施設としているが、計画段階において利用者である子育て世代、地元住民と関係団体に充分説明と連携を図ること」とあり、この時点で既に駅北には子育て支援機能がある施設が計画されています。

さらに令和3年10月28日に建設産業常任委員会による旧東北電力ビルの現地確認から始まり、総務文教常任委員会に引き継がれてからも審査が繰り返されて来ました。

そして、令和6年10月12日には糸魚川地区公民館で、整備事業の提案プレゼンテーションが市民に公開で行われ、優先交渉者が決定しています。この結果を受けて令和7年1月10日発行の広報いといがわでは「(仮称) 駅北子育て支援複合施設の基本協定を締結しました」「子育てを全力応援、子育てするなら糸魚川」と施設の外観や室内のイメージ図が2ページ見開きカラーで紹介されています。

このような経緯がある中で、(仮称) 駅北子育て支援複合施設に反対する方の理由の多くは「子どもが少ないから屋内遊戯施設はいらない」ですが、子育て支援につい

質 問 事 項

て、糸魚川市が現在抱えている問題を解決するためには、様々な要素が関わっていることに対して理解を求めることが必要ではないでしょうか。

まず、子どもが少ないからこそ、周りに同じ年齢の子どもがおらず、子育てを同じ立場で話せる、親同士の交流ができず、発育に心配がないのか、自分の子育てが間違っているのではないかと悩んだときに気軽に話すことができないという状況があること。

この状況は5歳児発達相談の希望者数が年々増加しており、令和3年度では24.8%、つまり4人に1人が相談したいというデータからも明確です。

子育てに不安がある、発育に心配があるのにも関わらず、相談する方法が分からない、相談することにハードルを感じる保護者を放置するのではなく、屋内遊戯場で遊んでいる様子を職員が観察して、こちらから見て気になる方には声掛けをして、必要な支援があれば、相談窓口につなげる場所であること。

広いスペースは、発達段階に応じて、ゾーンを分ける必要があり、トイレの便座の高さや大きさも発達に応じて違うものが必要で、手洗いコーナーや絵本などに触れ合うスペースがあること。

天候に関係なく遊べる場所というのは、雨や雪以外でも、ここ数年の猛暑で、熱中症だけではなく、野外の遊具は熱を帯び、小さな子どもでは火傷につながる危険性があること。

さらに、平成29年に子ども・子育て支援事業計画の見直しのために行った、小学生以下の子どもがいる全世帯に対するアンケートでは、施設整備に関する自由記述欄で「屋内遊戯施設が欲しい」が約100件と一番多かったこと。

平成30年に行った、にぎわい創出アンケートでは、公立保育園、私立幼稚園の保護者と支援センターの利用者、小学校2校の保護者約200人が回答し、約55%が「雨の日でも遊べる場所が欲しい」と回答していることは、無視できない市民の声です。

これからの糸魚川を支えていくのは子育て世代であり、子育てしやすい環境づくりを推進することが希望や夢を持って糸魚川に住む理由になると伝えていかななくてはいけないのではないのでしょうか。

こられを踏まえ、以下の項目について伺います。

- (1) 「建設の見直し」は、「中止」なのか、「内容の再検討」なのか、どちらですか。
- (2) 用地取得などで既に国から交付されている金額はいくらですか。もし中止した場合、返還する必要と財源はどうなりますか。
- (3) 利用できる既存施設はありますか。
- (4) 設計を変更した場合、設計委託費や建築費はどうなりますか。
- (5) 再検討のため整備計画期間を延長した場合、国の財源は延長できるのですか。
- (6) 駅北以外に建設した場合、有利な財源は確保できますか。
- (7) 計画に当たり、市民会議、各種団体のヒアリングはどのくらい行い、それをど

質 問 事 項

う計画に活かしてきましたか。

(8) 既存の子育て支援センターと、駅北子育て支援複合施設の違いが市民に理解されていますか。

(9) 旧宮田ビルを解体した跡地に、教育相談センターと糸魚川市適応指導教室ひすいルームを移転する考えはありませんか。

(10) 整備運営事業者の募集で、プレゼンテーションを市民公開で行った理由と、審査結果をどう受け止めていますか。

(11) パブリックコメントをどう分析していますか。

(12) 既存の子育て支援センターを充実させる場合、具体的な内容と規模、予算、維持費について検討したことはありますか。

(13) 子どもが遊びを通じて成長していくことを、どのように考えていますか。

(14) 子育て支援複合施設の経緯と必要性が市民に伝わりきれていない理由は何ですか。

(15) オープンが当初の計画より遅れていますが、更に先延ばしになった場合、どのような影響があると想定していますか。

(16) 市長が自ら市民に対して説明する必要はありませんか。

2 学校再編について

【答弁者：市長、教育長】

市長公約にある「学校再編と教育環境の整備、子育て支援の充実」について、以下の項目について伺います。

(1) 学校再編は小学校、中学校ともに行うのですか。

(2) 学びの多様化学校について、どのようにお考えですか。

(3) 越境通学は検討しますか。

(4) 教育環境の整備は具体的にどのようなことを計画していますか。

(5) 不登校の対応はどのように取り組んでいきますか。

⑫ 加藤 康太郎

1 「地方創生2.0」と「人口減でも幸せに暮らせる まちづくり」（縮充）について

【答弁者：市長】

第10回新しい地方経済・生活環境創生会議で示された「地方創生2.0基本構想」（案）では、人口減少が進む中であっても、我が国の成長力を維持していくためには、都市

質 問 事 項

も地方も、そして性別や世代を問わず、楽しく、安心・安全に暮らせる持続可能な社会を創っていくため、政策の5本柱として、（１）安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生、（２）稼ぐ力を高め、付加価値創出型の新しい地方経済の創生～地方イノベーション創生構想～、（３）人や企業の地方分散～産官学の地方移転、都市と地方の交流等による創生～、（４）新時代のインフラ整備とＡＩ・デジタルなどの新技術の徹底活用、（５）広域リージョン連携を掲げ、都道府県域や市町村域を超えて施策を面的に展開する必要があるとしています。

- （１）「地方創生 2.0」（政策の5本柱）に対する所見と、市長公約である「人口減でも幸せに暮らせる まちづくり」を目指す、まちづくりの新しい概念「縮充」について伺います。
- （２）「縮充する日本」の著者である山崎亮氏は、人々の主体性を伴った参加なくして、「縮充する未来」はありえない。また、「楽しさなくして参加なし」と明言されています。「縮充」を推進していく上で、市民参画が必須要件となります。当市における、楽しさと未来をつなげる仕組みを創り出す「トークイベント」や「市民ワークショップ」等を開催し、市民と共に未来を開き、市民参加型のまちづくりを推進していく考えはないか、伺います。
- （３）石破総理大臣は、地方創生を推進するため、出身地や趣味などで関わる居住地以外の自治体を登録する「ふるさと住民登録制度」（関係人口を可視化する仕組み）の創設を表明しました。今後、継続的に地方と関わる「関係人口」を増やすために、「第二の住民票」を交付し、10年で、1千万人を目指すものです。当市として、市長提案の「セカンド市民」構想の中で、どのように、「ふるさと住民」を、10年で、何名を目指すのか伺います。
- （４）「地方創生 2.0」に向けた相乗効果（財源確保）として、令和7年度の「ふるさと納税」、期間延長された「企業版ふるさと納税」と合わせて、10億円を目指し、更なる拡充、推進する必要があると考えます。令和7年度の目標額を明示して、取り組む考えはないか伺います。
- （５）今後の進め方として、国として、令和7年中に本基本構想を実施段階に進めるための総合戦略を策定し、地方は、「地方創生 2.0」を推進する取組に早期に着手し、地域の多様なステークホルダー等とともに地方版総合戦略の見直しを図るとしています。「第3次糸魚川市総合計画」の改定作業と連携して進めていくべきと考えます。所見を伺います。

質 問 事 項

⑬東 野 恭 行

1 久保田市政における今後の取組について

【答弁者：市長】

令和7年第2回市議会臨時会の久保田市長の挨拶の中で、「市民と共に未来を開く」を基本理念として、市民一人ひとりの声に耳を傾けることを大切にし、市民の皆様とともに考え、ともに行動することで、持続可能で、活力あるまちづくりを進めてまいりたいとありました。

久保田いくお公式サイトでは、重点政策が明示されており、今後の市政運営に反映されていくものと考えことから、公式サイトを基に今後の展開について質問させていただきます。

- (1) 医療・福祉の重点政策、糸魚川市の医療体制を守る上で、久保田市長が市民に対し、協力を促したいことは何か伺います。
- (2) 教育の重点政策、少子化が進む中、「学校再編や部活動の地域展開を推進」とありますが、展開イメージをお伺いします。
- (3) 経済活性化の重点政策、観光資源の整備やふるさと納税の活用により、特定資金源を確保するとありますが、展開イメージをお伺いします。
- (4) 「地域の特性を活かす」の重点政策、交流人口の増加を目指す展開イメージをお伺いします。
- (5) 災害対応と安全の重点政策、防災対策を強化し、災害時の相互支援体制を実現するとありますが、展開のイメージをお伺いします。
- (6) 駅北子育て支援複合施設の建設の見直しについて。市民の声に更に耳を傾け、駅北にふさわしい充実した施設について再検討を行うとありますが、今後、市民合意をどのように図っていくのか伺います。
- (7) 新久保田市政において「縮充」（しゅくじゅう）の概念が糸魚川市の大切な目標となると考えますが、久保田市政だからこそ活かされる糸魚川の特色は何か伺います。

⑭松 田 徳 彦

1 地域医療の充実について

【答弁者：市長】

- (1) J A新潟厚生連病院の経営危機が市民に不安を広げています。令和7年3月

質 問 事 項

12日に「日本医師会・6病院団体」が合同声明を発表し、診療報酬等について、賃金・物価の上昇に応じて適切に対応する新たな仕組みの導入を求めています。

糸魚川総合病院への財政支援とともに、病院の赤字を減らすために合同声明の内容で医療機関等と協力していくことも必要と考えますがいかがですか。

- (2) 新潟県の「地域医療構想・区域別構想（上越構想区域）」では、「糸魚川地域では地域内の完結率が8割と高く、上越地域との地理的要因によるアクセス手段・時間等も考慮する必要がある、地域内でも医療体制の充実を図ることが重要です。」「糸魚川地域内で一定程度完結できる病床機能を備えることが必要です。」とされています。

この点についての市の立場と上越地域医療構想調整会議での議論について伺います。

- (3) 新潟県の「医師確保計画」では、令和18年までに上越医療圏で229人の増員を目標としています。市独自の大学への派遣交渉とともに県にこの目標を達成させる具体策を求めていくことも必要と考えますがいかがですか。

2 子育て支援について

【答弁者：市長】

2024年の新潟県の出生数は9,941人で、14年連続で過去最少を更新しました。自然減は過去最多となりました。

安心して子育てができるためにも、子育て支援が大切と考えます。

- (1) 学校給食の無償化は国も必要性を認めていますが、子育て世代の支援のためにも物価高騰の緊急対策としても、国に先駆けて学校給食費を段階的に無償化していく考えはありませんか。
- (2) 国保税には「均等割」があり、子どもが生まれるたびに世帯の負担が増えることとなります。現在、小学校就学前の児童には減額措置があります。更に出生を応援するために児童の均等割りを免除する考えはありませんか。

3 平和行政について

【答弁者：市長、教育長】

今年は、戦後80年、被爆80年です。「糸魚川市平和都市宣言」制定から18年です。国連では核兵器禁止条約が発効するなど、平和への大きな流れがありますが、痛ましい戦争が続いている現状もあり、報道等に心を痛めておられるという声も聞きます。

また、戦争や被爆の体験をされた方が少なくなり、その継承は大きな課題となっており、教育の重要性は増しています。

- (1) 例年取り組まれている市内中学生の被爆地訪問について、その成果と今年の計

質 問 事 項

画を伺います。

- (2) 被爆80年の年に新たに行う平和施策は予定されているか伺います。
- (3) 広島の高校生が被爆者から聞き取ったことを絵にしています。その絵を一定期間、校舎に展示して児童・生徒に鑑賞してもらうことを検討できないか伺います。
- (4) 毎年実施されている「原爆と人間」のパネル展を市民が集まる市役所ロビーで開催することを検討できないか伺います。

⑮ 関原奈津美

1 久保田市長が市民へ掲げた公約について

【答弁者：市長】

- (1) 公約に掲げた駅北子育て支援複合施設の見直しについてのお考えを伺います。
 - ① 予定地の解体工事と建設について伺います。
 - ② 「駅北にふさわしい充実した施設について再検討」と公約に掲げた具体的な構想について伺います。
 - ③ 駅北大火からの復興で目指した「にぎわいの拠点施設」の完成形として、この施設が議論されてきた経緯と、「行政の継続性」を市長はどのように捉えているか、お考えを伺います。
- (2) まちづくりの新しい概念「縮充」について具体的なお考えを伺います。
 - ① 縮小の具体的な内容について伺います。
 - ② 充実の具体的な内容について伺います。
- (3) 市長が目指す「対話」とは具体的に市長がどのように市民と向き合っていくことかを伺います。

2 農業の課題について

【答弁者：市長】

- (1) 米価高騰による国の動向を、糸魚川市の農業従事者を守るという観点からどのように捉えているか、市長のお考えを伺います。
- (2) 農業を核にした交流事業を展開している事例が市内にもありますが、農業の担い手育成という観点から、このような取組を糸魚川市として推進するお考えがあるか伺います。

⑩ 田 原 実

1 明日の医療を守る、糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について

【答弁者：市長】

糸魚川市の著しい人口減少による様々な影響が顕著になっています。特に医療、教育、産業のダウンサイジングは、更に人口減少に拍車をかけるものと心配しています。その一方、10年後の人口3万人を見据え、まちづくりの主役である市民が意識と行動を変えていくことで、糸魚川で夢を持ち、幸せに暮らせることを示し実践することは市長行政と議会議員の責務と考えます。その認識の下、糸魚川市の最重要課題である、これからの地域医療確保について質問します。

- (1) 公的な病院から公立病院へ。人口減少の影響が著しい糸魚川総合病院の持続と救急医療対応について伺います。
- (2) 新潟県地域医療構想と上越圏域病院再編、富山県に接することを活かし連携する広域医療圏、県外大学・医療機関との連携による新しい医療体制づくりについて伺います。
- (3) 糸魚川総合病院への様々な市民の声と行政対応、今後診療科が減ることへの市民理解（医療教育）の進め方について伺います。
- (4) 私は3月の議会においても同じ内容で米田市長に質問しました。旧市政とは違う、新しい取組をお考えであれば、違いをお示しいただきたく伺います。

2 久保田市長の新しいまちづくり、糸魚川のまち再生と発展について

【答弁者：市長】

糸魚川の再生と発展、そのための新しい政治、久保田市長に寄せられる市民の期待は大きなものがあります。また、糸魚川市が直面する様々な問題、成果を生まなかった事業への抜本的な対応にも市民は注目しています。久保田市長のマニフェストへの記載事項、市長選挙当選後のスピーチや所信表明の中から、今回は以下の取組について質問し、市長のお考えを伺います。

- (1) 久保田市長の考える経済活性化策、サテライトキャンパス構想、第一次産業の未来を拓くオーガニック・ヴィレッジ、観光資源の整備やふるさと納税の活用、特定資金源の確保について伺います。
- (2) 観光資源や伝統文化など地域の特徴を最大限に活かしたまちの再生、宿場町としての歴史を引き出しながら、交流人口の増加を目指す政策について伺います。
- (3) 市長選挙、市議会議員選挙の論点となった駅北子育て支援複合施設建設の見直しと久保田市長の代案について伺います。

質 問 事 項

3 糸魚川市の行政・財政・組織改革について

【答弁者：市長】

新しい市長が人口減少社会に対応した『まちづくり』を進めるに当たり、現状を把握した上で、行政サービスの向上を図らなければなりません。

また、施策を実践するための財源確保の課題、そして事業を展開するための組織体制の見直しが必要であると考えます。

以下の取組について質問し、市長のお考えを伺います。

(1) 行政改革について

久保田市長の公約では、縮小しても充実した社会を目指す「縮充」というお考えを示されていますが、充実した社会形成に向かって行政改革をどのような視点で進めるのか伺います。

(2) 財政改革について

今後、新たな施策を展開するためには、財源の課題が重要です。既に職員からの説明は受けているとは存じますが、新市長の財政運営に対するお考えを伺います。

(3) 組織改革について

糸魚川市の組織機構は、米田市長が構築し進めていますが、久保田市長が公約に掲げた施策を推進するためには組織体制の見直しが必要と考えます。令和8年度に向けて組織機構を見直すお考えがあるか伺います。